

## 意見公募によって提出いただいた意見及び反映結果

施策案の名称	取手市自転車活用推進計画		
意見募集期間	令和5年4月1日から 令和5年4月30日まで		
意見提出者数	3人		
提出意見数	3件		
意見項目数	3件		
意見提出の内訳	直接窓口へ持参	1人	1件
	郵送	0人	0件
	ファクス	0人	0件
	電子メール	2人	2件
意見の反映結果	A 案に反映させたもの(反映・修正箇所がわかるものを添付)	1件	
	B 意見の趣旨が既に案に盛り込まれているもの	1件	
	C 今後の取り組みにおいて参考にするもの	0件	
	D 案に反映できないもの	0件	
	E その他(感想・賛否のみなど)	1件	
匿名等による意見提出者数	0人		

※意見公募は政策等の賛否を問うものではありません。有用な意見を政策等に反映させるため、意見の内容に着目し、これを考慮した市(実施機関)の考え方を掲載しています

※類似の意見に対しては、まとめて市(実施機関)の考え方を掲載したものがある場合は、意見項目数と一致しません

※詳細は別紙のとおり

## 提出された意見と市の考え方

番号	該当ページ	意見	市（実施機関）の考え方	反映区分
1	p. 60 ～p. 84	<p>感想：全体としては、無難にまとまっていると思います。あとは行政を含めた現場での推進力の問題。みなさまの活動に期待します。</p> <p>意見：5. 実施施策の内容 各目標の実施の「対象者」についてこの中の対象者の区分として「高齢者（60歳以上）」としていますが、高齢者を60歳以上とする根拠がわかりません。通常、政府機関等において「高齢者」の定義として使用しているのは世界保健機関(WHO)が定義する「65歳以上」の人のこととしています。そして65-74歳までを前期高齢者、75歳以上を後期高齢者に区分して、政府関係の統計、施策等で使用・表現しています。</p> <p>取手市内における自転車事故が仮に60歳以上に多いというのであれば、高齢者と表現せずに年齢区分別にすれば良く、もし他の理由があるのであれば特記すべきです。</p> <p>定年延長、70歳までの就労等を政府が推奨している中において、取手市が高齢者の定義を「60歳以上」としていることには疑問を感じます。</p>	<p>5. 実施施策の内容における各施策の対象者の区分について、ご指摘のとおり高齢者の年齢区分には、法律によって定義が異なるものですが、世界保健機関（WHO）が定義する65歳以上が一般的と言えるところです。つきましては、その解釈に疑義が生じないよう事業の対象者の区分については、小学生から高校生を除き、年代での区分表記に改めたいと思います。具体的には、「10代～50代」、「60代以上」に変更修正いたします。</p> <p>なお、これらの年代区分の設定については、茨城県警察本部等による各種統計調査や先進自治体の自転車活用推進計画を参考にしております。</p>	A
2	p. 82	<p>高齢のため運転免許証を返納し、自転車（三輪）を利用しているのですが、新取手駅から電車を出掛けようと思うのですが、新取手の駅には三輪自転車を置くところがなくて非常に困っています。何とかありませんか。</p>	<p>新取手駅前の駐輪場に関するのですが、現在、新取手駅に隣接して無料自転車駐車場である「取手市新取手駅自転車駐車場（収容台数363台）」が設置されております。収容車種も自転車、原動機付自転車、自動二輪車となっており、三輪自転車も収容が可能であるところです。</p> <p>駐車場の整備等に関しては、本計画書におきましても「駐輪環境の整備充実」を掲げており、市内駐輪場の利用実態を把握し、路上駐輪の防止や機能向上が図れるよう駐輪場の整備検討を進めることとしています。市では高齢者の方も安心して自転車を活用できる環境整備が図れるよう努めてまいります。</p>	B
3		<p>私は72才です。自転車はありますが、主に車と徒歩を使っています。自転車を</p>	<p>本市におきましては、年々自転車活用に対する市民の機運が高まってい</p>	E

	<p>使わない理由は、家の前の道路は通学路で30km制限の生活道路ですが、抜け道に利用する車の往来が激しく、速度も制限を守っていないので、自転車が煽られて危険だからです。車が交差する場合は完全に歩道の線にはみ出ている、きわめて危険です。</p> <p>私は歩行者や自転車が優先されるまちづくりを進めるべきだと思います。子ども達が安心して歩いたり自転車にのったりできるまち、高齢者が歩いて楽しいまち、障害者が車椅子などでも一人で安心して外出できるまち、これからはそういうまちを市民と行政が協力して作っていくのが大切ではないかと思います。</p> <p>今まであまりに車優先のまちづくりがされてきました。取手市は車がなければ生活できない土地になってしまいました。大型スーパーやショッピングモールなどは、車がなければいけません。しかもこれらの大型商業施設は、雇用もほとんど非正規で、売られるものは他所で作られたものが多く、利益はみんな東京に吸い取られていきます。地域はますます貧しくなり、人口は減少し、疲弊します。</p> <p>歩きや自転車で行くことができる地域の商店街は、カネ、モノ、ヒトを地域で回すので、地域の経済を元気にします。また、人が歩いて楽しいまちは、高齢者も元気で、介護もあまり必要でなくなります。また、人と人とのつながりや出会い、新しいコミュニティーや居場所も作られ、家族や老人の孤立の問題も解決されていくでしょう。ただしこれには相当の市民の意識改革と行政の未来を見据えた指導力が必要です。</p> <p>最終的にはエネルギーや食糧の自給をはじめとして地消地産（市で消費する物は市で作る）を行い、地域で経済（ヒト、モノ、カネ）を回し、経済的自立と文化的自立を目指すことが、結局は、歩きや自転車の優先の住みやすいまちづくりへつながっていくのではないかと、私は考えます。</p>	<p>るものと感じており、本計画の基本方針にも定めるとおり、「誰もが安全・快適に自転車を活用することができる地域社会の実現」を掲げているところです。その実現に向けては市民との協働による取り組みは大変重要であると考えております。自転車の普及促進を図るなかで、「安全安心」、「観光振興」、「健康増進」、「環境整備」の観点から各種施策を展開し、地域社会の活性化、住みやすいまちづくりに繋がるよう努めてまいります。</p>	
--	---	---	--

※意見公募は政策等の賛否を問うものではありません。有用な意見を政策等に反映させるため、意見の内容に着目し、これを考慮した市（実施機関）の考え方を掲載しています